

2015年9月24日 Vol.2

IPO 市場は宝の山！？時流に乗るテーマ株の人気は根強い

奥の深い株式投資の世界では、これまで多くの投資家がどうやれば儲かるのかと頭を悩ませてきました。かつて、あの高名な経済学の権威であるケインズ先生が、「株は美人投票だ」といった話がありますが、自分の好みで銘柄選定するよりも多くの他の投資家が好みそうな銘柄を選ぶ方が儲かる、というのがこの考え方の根底であります。

これに対して株を科学して数字の理論で成果を高めようとする投資手法も当たり前の世界となっていますが、これが絶対と言い切るには余りに株式市場は複雑です。PER や PBR、配当利回りといったモノサシを用いて企業は評価されますが、これが単純に市場平均よりも高いとか低いとかいう尺度で投資したとしても得られる儲けは知れていて、それよりも多くの投資家が集まってきそうなテーマ性に沿った銘柄に投資した方がリターンは大きいという考えも有効なのかも知れません。

IPO 市場にもそうした時代背景をもった時流に沿ったテーマ性のあるビジネスに取り組む銘柄が登場し、人気を集めています。設立時期が比較的新しく、積極的な成長を目指す企業が IPO してくる東証マザーズ市場などの新興市場には時々、普通のモノサシには当てはまらない突出した評価の銘柄が出現します。

例えば、2012年12月に東証マザーズ市場に上場した微細藻ミドリムシで有名なユーグレナ(2931)の上場初値は公募価格1700円に対して3900円。その直後に5分割を実施しましたが、分割後の高値は16510円となり時価総額は2257億円にも達しました。経常利益が2億余りの企業としては極めて評価が高いと言えますが、同社は現在既に東証1部銘柄となり時価総額は1400億円という水準を維持しています。これは西松建設(1820)や三井金属(5706)とほぼ同水準。設立後10年の企業の時価総額がこうした老舗企業と並ぶ評価となっています。

これに続いて、2014年3月に東証マザーズに上場しましたロボットスーツ「HAL」を開発した筑波大学発ベンチャーのCYBERDYNE(7779)も公募価格3700円から初値8510円をつけるなど人気を集めました。その際の時価総額は924億円でしたが、その後、同社も5分割を実施し、分割実施後の株価は4265円まで上昇。時価総額も4000億円を超えました。現在も時価総額は1772億円と高水準。まだ大きな利益は出ておらず、将来性を評価しての株価形成です。このように利益は出ていなくても市場の人気によって時価総額が膨らむケースも出ています。

直近では昨年9月に東証マザーズに上場した標的攻撃型ネットワークセキュリティ企業、FFRI(3692)が公募価格1450円に対して初値4010円をつけた後、4分割を実施。その後、本年7月に18500円まで株価は上昇。時価総額は1400億円という水準にまで高まりました。今期予想経常利益は2億63百万円にしか過ぎませんが、現在も時価総額は約760億円を維持しています。これもサイバーセキュリティ関連という市場

東京 IPO 特別コラム

でのテーマ性によって評価が高まったことが背景となっています。

今、話題を集めている日本郵政株やその子会社2社の株式上場も IPO 投資のチャンスをもたらそうとしていますが、実はこうした大型 IPO に続くテーマ性重視の投資対象銘柄が既に市場では話題を集めつつあります。車の自動運転というテーマ性を持った ZMP という企業ですが、今秋から来春にかけ IPO が予定されているようです。DeNA (2432) と提携してのロボットタクシーは未来の交通インフラを変えるとの夢を感じさせます。その詳細内容はまだ明らかではありませんが、上述3社と同様に IPO 後に人気を集める可能性があります。既にその関連上場企業で先取りした動きが見られますので注目しておきたいと思います。

(東京 IPO コラムニスト 松尾範久)